For Earth, For Life
Kubota

いつも機械をベストコンディションに!

田植機 セルフメンテナンス

お客さまご自身で行なう 点検整備ポイント

多条植田植機版

はじめに

この「セルフ・メンテナンス」は、お客さまご自身で保守・点検を実施していただけるよう作業内容を一冊にまとめたものです。

クボタの機械を「安心」して「末長く」「安全」にお使いいただくために、ぜひ日頃のメンテナンスをお願いいたします。

なお、製品の正しい取扱方法など安全のために取扱説明書とあわせてお読みいただくようお願いいたします。

地域環境への配慮

（自然への投棄、放置はしないで下さい）

廃油処理について

＊抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し、処理してください。

＊廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。

使用済廃棄物の処分について

廃油や冷却水などの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。

地面へのたれ流しや川、沼への廃棄は絶対にしないでください。

廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

焼却は原則禁止です。

●ほ場での稲わら等の焼却は焼却禁止の例外ですが、その他の廃棄物（廃ビニール、タイヤ等）をいっしょに焼却するのは生活環境の保全上著しい支障があり禁止されています。

日常点検、定期点検をお勧めします。

●日頃の点検整備により機械の調子を整えることは、排気ガスを良い状態に保つことをはじめ、故障による部品交換発生、自然へのオイル漏れ等を防止し、環境保全にもつながります。

点検作業を安全にするために

注　意　**事故防止のため、取扱説明書をお読みいただき、よく理解して正しい点検作業を行ってください。**

始動時

●エンジンの始動は、運転席に座り各変速レバーを中立にしてください。

●機械周辺の人や物に十分注意し、ブレーキペダルを踏込み駐車ブレーキレバーでペダルをロックしてから始動してください。

●屋内で始動する時は、窓・扉を開け、外気が十分に入るようにしてください。

点検・整備時

●エンジンを止め、機械の各部が停止してから行ってください。

●高温部には触れないように注意してください。

●駐車および点検などで運転席を降りる時は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いてください。

●植付部を持上げて点検する時は、油圧昇降ロックをし、植付け部の落下を防止してください。

運転時

●運転による確認は平坦な場所で行い、駐車ブレーキをかけ、各変速レバーを中立にして、確認を行ってください。

その他

●火災の危険がありますので、シートカバーは機械が冷えてから掛けてください。

●この機械は公道走行ができないため、トラックに乗せて運搬してください。

点検にトライしよう!

エンジン部

走行部

植付部

施肥部

注油・グリースの塗布と補給

※このマニュアルは、EP67を基準として構成しています。型式・シリーズによって仕様が異なりますので、取扱説明書をお読みいただき応用してください。

1 エンジンオイル

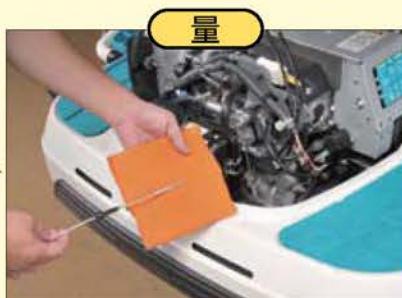
? エンジンオイルの役割は?

潤滑作用　密封作用　冷却作用　清浄作用

交換しないと →

! こんな不具合がおこります

●エンジンオイルが不足・劣化し、**エンジンの寿命を縮め**焼付きの原因となります。

点検方法

●上限と下限の間にあるか確認。

交換

●最初の交換は**20時間**、2回目以降は**200時間**ごとに交換してください。

●「クボタ純オイル(スーパー G 10W-30)」の使用をおすすめします。寒冷地ではG20がおすすめです。

2 エンジンオイルフィルタ(カートリッジ)

? オイルフィルタの役割は?

エンジンオイルのろ過

交換しないと →

! こんな不具合がおこります

●フィルタが詰まるとオイル圧力が低下し、**エンジンの寿命を縮め**ます。

●**エンジンオイルの交換時期を早める**原因となります。

点検方法

※カートリッジは、必ずエンジンを止めて十分に冷えてから交換してください。

交換

●エンジンオイルと同時に**200時間**ごとに交換ください。

●フィルタは「クボタ純正オイルフィルタカートリッジ」の使用をおすすめします。

※カートリッジを本体に取付けるときは、フィルタレンチを使用せず手で確実に締めてください。

※フィルタ交換後は約5分間低速運転し、オイルランプの異常、油もれがないか確認し、もう一度オイル量をチェックしてください。

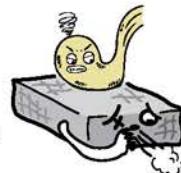
3 エアクリーナエレメント

エアクリーナエレメントの役割は?

空気のろ過

洗浄・交換しないと

こんな不具合がおこります

- エンジン**出力が低下**してきます。
- エンジンオイルが異常に消耗・劣化し、**エンジントラブル**につながります。

点検方法

- エレメント(スポンジ)の汚れや破損がないかを確認してください。

エアクリーナーエレメント

洗浄・交換

- **50時間**ごとに点検してください。(汚れがひどい時は都度掃除)
- エレメントを取外し、灯油又は家庭用洗剤で洗浄(もみ洗い)をします。

- 汚れや破損のひどい場合は交換してください。
- 詳しくは取扱説明書を参照してください。

※エレメントはエンジンオイルに浸して固くしぼってから取り付けてください。

4 燃料フィルタポット ※キャブレタのある機械のみの点検カ所

燃料フィルタポットの役割は?

燃料のろ過

洗浄・交換しないと

こんな不具合がおこります

- **エンジン出力が低下**してきます。
- **エンジントラブル**につながります。

点検方法

燃料フィルタポット

①燃料コックレバーを停止(閉)位置にします

②リングネジをゆるめてフィルタポットを外す。

③水やゴミが沈殿していないか確認してください。

洗浄・交換

- エレメントを取出して、ガソリンで洗浄してください。
- シーズン前・シーズン後ごとに清掃洗浄してください。
- 汚れのひどい場合は交換して下さい。

※交換後はパッキンのはみだしのない状態で確実に締め、燃料もれのないことを確認してください。

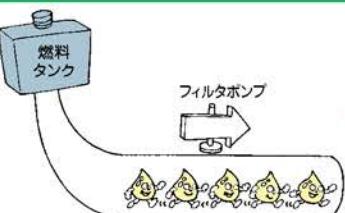
火気には十分注意して作業を行ってください。

エンジン部
走行部
植付部
施肥部
注油・グリースの塗布と補給

5 燃料パイプ

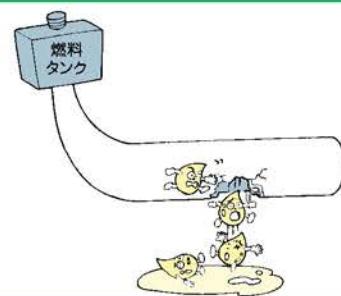
燃料パイプの役割は?

燃料の通路

交換しないと

こんな不具合がおこります

●燃料もれなどのため**エンジンが作動しなくなります。又、燃料もれで火災の原因**となります。

点検方法

燃料パイプ

●ひび割れ・き裂・燃料もれの確認をしてください。

●ホースバンドのゆるみや外れがないか確認してください。

増締め・交換

●作業の前後に点検してください。

●燃料がもれているときは、ホースバンドを締付けてください。

●**2年**を経過しているときや劣化が激しい場合は交換してください。

●ホースバンドがゆるんでいる場合は締めなおしてください。

火気には十分注意して作業を行ってください。

6 点火プラグ

点火プラグの役割は?

混合ガスに点火

掃除・交換しないと

こんな不具合がおこります

●**点火不良**になります。

点検方法

●ボンネットを開き、点火プラグキャップ２気筒分を外し、ボックススパナ等で点火プラグを取外します。

●ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンの付着を落して掃除した後、電極のスキ間を確認して下さい。

調整・交換

●スキ間は、0.6~0.7mmに調整します。

●ガイシ部が損傷したり、電極部に異常がある場合は交換して下さい。

●取扱説明書に従って型式に合った点火プラグに交換してください。

スパークプラグ

7 バッテリ

バッテリの役割は?

- 始動するための電源
- 自動化装置の電源
- 照明の電源

メンテナンスしないと

こんな不具合がおこります

●バッテリ内の電解液が蒸発したり自然放電で、**エンジンの始動が困難**になります。

●**自動化装置**の不調の原因となります。

点検方法

●バッテリ液が不足している場合は補水キャップを外し精製水を補水してください。

※希硫酸・井戸水・ミネラルウォータなどは絶対に入れないでください。

量

補給・交換

●充電が不足している場合は、バッテリを機体から取外し充電してください。

●バッテリを機体から取外す時は、マイナスコードを最初に外し、次にプラスコードを外してください。(取付けの場合は逆の順番で行ってください。)

●ターミナルが腐食又は汚れている場合は、金ブラシ、サンドペーパで取除き、グリースを塗布したのち締付けてください。

●ブースターケーブルを使って始動させる時は、⊖部をエンジンブロック等に接続しボディアースを取ってください。

●長期格納する場合は、マイナス端子を外すかバッテリそのものを機体から取外し、暗所に保管してください。

●**バッテリの取扱いには注意が必要です。取扱説明書を十分にお読みください。**

8 冷却水・不凍液

冷却水の役割は?

- 冷却作用

不凍液の役割は?

- 冷却水の凍結防止
- 防錆作用
- オーバーヒートの防止

補給・交換しないと

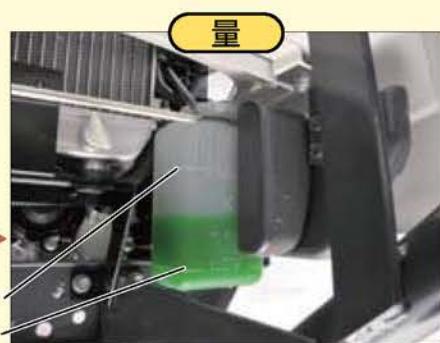
こんな不具合がおこります

●**オーバーヒート**の原因になります。

●**エンジンの破損**につながります。

点検方法

●リザーブタンク内の水量が「FULL〜LOW」の範囲にあるか確認してください。

量

補給・交換

●冷却水が「LOW」以下の場合「FULL」の位置まで清水を補給してください。

●冷却水は水道の水でも構いませんが、LLC(ロングライフクーラント)の使用をおすすめします。

●冷却水の交換は**2年**が目安です。

※ラジエータキャップを外す場合は、エンジン停止後30分経過してから行なってください。

9 ミッションオイル

ミッションオイルの役割は?

潤滑・清浄・防錆作用

油圧・変速関係の作動

自動化装置・パワステなどの作動

交換しないと

こんな不具合がおこります

●ミッションオイルが不足・劣化し、**油圧部品の寿命を縮めます。**

●走行・自動化装置・パワステなどが正常に動作しなくなり、**機体が動かなくなる**原因となります。

点検方法

補給・交換

注意 ＊ 交換をするときは、必ずエンジンを止めて十分冷えてから行ってください。ヤケドのおそれがあります。

●最初の交換は**50時間**、2回目以降は**100時間**ごと又は**3年経過後**の交換が目安。

ミッションオイル スーパー UDT2

10 ミッションオイルフィルタ(カートリッジ)

オイルフィルタの役割は?

オイルのろ過

交換しないと

こんな不具合がおこります

●フィルタが詰まるとオイル圧力が低下し、**油圧機器の寿命**を縮めます。

●**オイルの交換時期**を早める原因となります。

点検方法

オイルフィルタカートリッジ

汚れ

新品　200時間使用したもの

●最初の交換は**50時間**
2回目以降は**100時間**ごとの交換が目安。

※交換は、必ずエンジンを止めて十分冷えてから行ってください。

交換

●フィルタは「クボタ純正オイルフィルタカートリッジ」の使用をおすすめします。

※カートリッジを本体に取付けるときは、フィルタレンチを使用せず手で確実に締めてください。

※フィルタ交換後は約2分間運転、植付部の昇降に異常がないか確認し、もう一度オイル量をチェックしてください。

11 ブレーキ

ブレーキの役割は?

制動装置

万一故障すると

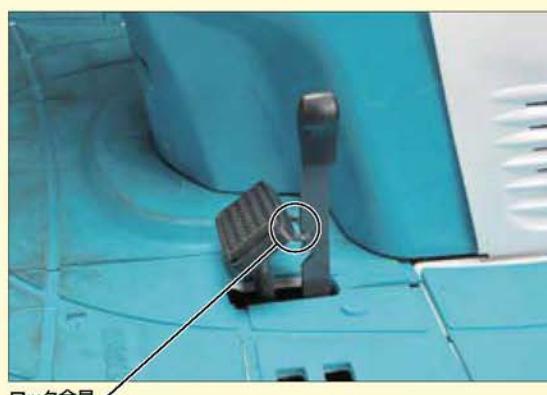
こんな不具合がおこります

●**機体が止まらず事故の原因**となります。

点検方法

注意 ●水平で平たんな場所で行ってください。
●機械の周囲に人がいないことを確認してください。

◆点検
①平たん地でブレーキペダルを踏込んでエンジンを始動します。
②主変速レバー前進側又は、後進側にそれぞれ操作し、ペダルを踏込んだときに走行が停止することを確認します。
③次に傾斜地で駐車ブレーキを掛けたときに、機体が停止していることを確認します。

ロック金具

メンテナンス

●点検で機体が停止しない場合には直ちに、購入先に連絡して下さい。

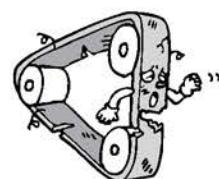
12 ミッション駆動ベルト

駆動ベルトの役割は?

動力伝達作用

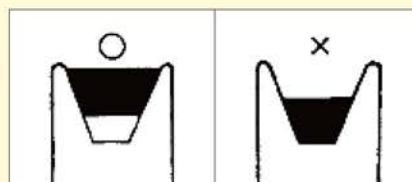
交換しないと

こんな不具合がおこります

●ベルトの伸び、ひび割れ、き裂、はがれ、焼付き、摩耗などにより、**故障**の原因になります。

点検方法

ミッション駆動ベルト

●焼付き、被覆のはがれ、き裂などベルトの損傷を確認。
●ベルトの底とプーリの接触がないかを確認。

○	×

損傷

焼付き　被覆のはがれ　き裂

メンテナンス

●ベルトが損傷している場合は、購入先に連絡してください。

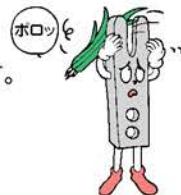
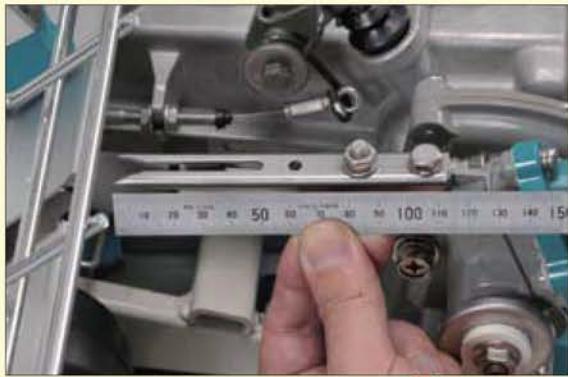
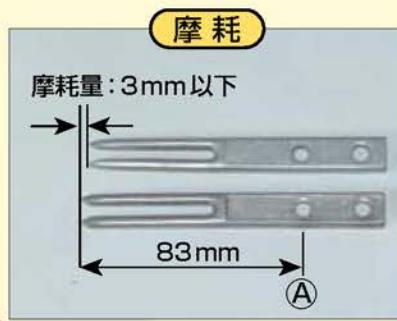
エンジン部 走行部 植付部 施肥部 注油・グリースの塗布と補給

13 植付爪

苗取り

清掃・交換しないと

こんな不具合がおこります

●爪が摩耗し**苗取り**ができなくなります。

点検方法

●爪の摩耗、破損、変形の確認をしてください。

●新品Ⓐ 83mm

調整・交換

●ナットを外し指定された爪と交換してください。

●植付爪は消耗品ですので、植付性能安定のため、**3mm以上**摩耗しているときは交換してください。

14 植付アーム(押出し金具)

押出し金具の役割は?

苗取り

植付け(強制押出し)

メンテナンスしないと

こんな不具合がおこります

●**植付け不良**の原因となります。

点検方法

●押出し金具が作動しているかの確認。
(点検手順)

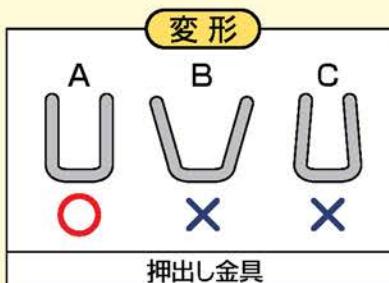
※植付部を中間の高さにする。

①メインスイッチ"入"で、ポンパレバー下降2回操作をして、メインスイッチを"切"にする。
(植付クラッチを"入"にする)

②植付爪を手で回し、最下端位置(押出し金具が押し出された状態)にする。

③手で押出し金具を押し込み、作動確認をする。

●押出し金具の作動
押出し金具が勢いよくスムーズに飛び出すこと。

作動確認

メンテナンス

●押出し金具の変形や、押出し金具が正常に作動しないときは、購入先に連絡してください。

15 施肥装置

施肥装置の役割は?

施肥装置

メンテナンスしないと

こんな不具合がおこります

●**施肥むら**が起こります。

点検方法

肥料詰まり

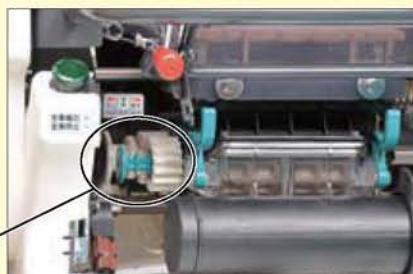
●ホッパ、ホース、作溝器に肥料の詰まりがないかの確認。

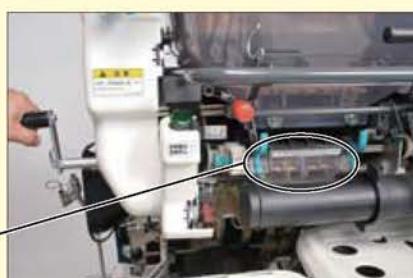
ホッパ

継手　ホース

作溝器

作溝器の掃除

★こんなチェックも忘れずに!

条止め状態になっていませんか?

排出位置になっていませんか?

ロールが回っていますか?

施肥量は合っていますか?

メンテナンス

●取扱説明書に従ってメンテナンスを行うか、購入先に連絡してください。

●使用期間中に洗車する場合は、ホッパ、ロール、ブラシ、ホースなどの肥料の通路に水がかからないようにしてください。肥料詰まりの原因になります。

■肥料詰まりを起こさないための注意

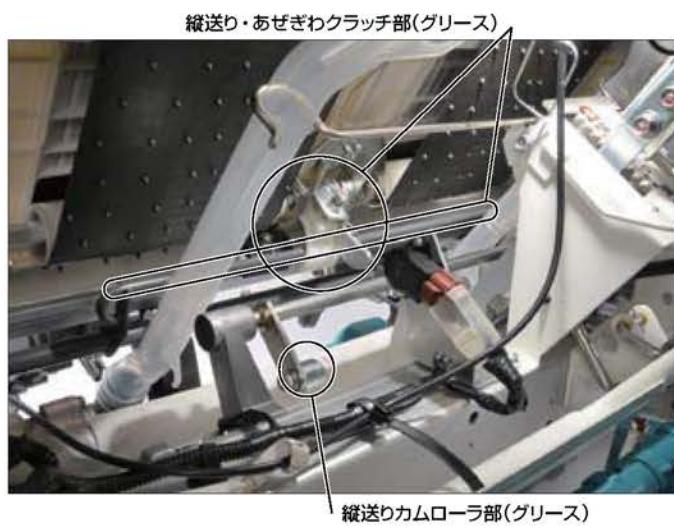
(1)旋回時や後進時は植付部を必ず上げてください。

(2)ほ場内でエンジンを止める時は、植付部は上昇させ油圧ロックしてください。

(3)適正な肥料を使用してください。

(取扱説明書参照)

注油のしかた

機体各部の掃除が終わったあとや長期格納又は、田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行ってください。

詳しいご相談は下記までご連絡ください。	担当者

発行／株式会社 クボタ
編集／クボタ機械サービス株式会社

KES.12.12